

中国思想文化学

汲めど尽きせぬ東アジア四千年の思想文化

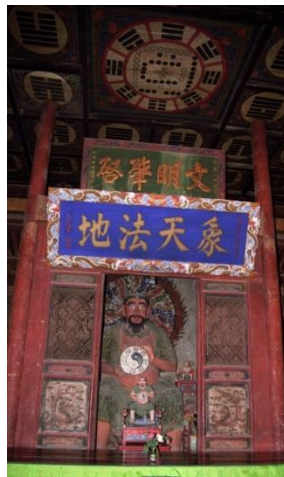
中国を中心としつつ、韓国朝鮮と日本を含めた東アジア漢字文化圏の思想を研究の対象としています。現在、教授3名、助教1名、研究室の所属学生は大学院生、学部学生、外国人研究生をあわせて26名。全員幅広い視野から東アジアの思想的営為全般に関心を持っています。学生のみなさんには、教員の専門にこだわらず、各自の興味を追求することを積極的に奨励しています。時代的・地理的な制約を設けず、研究ジャンルも信仰から科学、文学から政治までと、「思想文化」のすべてを扱っています。文献学的方法を基本としますので、漢文資料の読解には気合を入れて取り組むことになりますが、フィールドワーク中心の研究も可能です。

比較的少人数の研究室なので、教員と学生が直接話をする機会は豊富です。学生同士の交流も盛んで、学部生には大学院生ら先輩たちが勉強や生活についての身近な相談相手となっています。また留学生も多く、共同研究室にいただけで半分留学しているような感覚になります。卒業後の進路は就職と大学院進学が半々。漢字文化圏に生まれ育った皆さんが、自分自身あるいは自分たちの問題をバックグラウンドとともに深く考えようとした時、私たちが蓄積してきた知見、築いてきた環境をぜひとも役立ててほしいと願っています。



孔子見老子図（後漢時代、山東省）

孔子が老子に会って礼を問うたという伝説に基づく



伏羲像（甘粛省天水市伏羲廟）
易の発明者とされる伏羲（ふっき）



朱子と門人たち（福建省武夷山市武夷宮）
朱子学の祖、宋の朱熹と黄幹ら門弟



渾儀（こんぎ、明代の製造、北京）
天体の位置の測定に用いられた機器

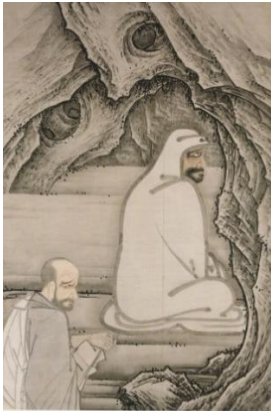


辟雍（へきよう、北京）
天子の設けた最高学府、伝統的な中国の大学



王陽明像（貴州省陽明祠）
陽明学の祖、明の王守仁

※裏面もご覧ください



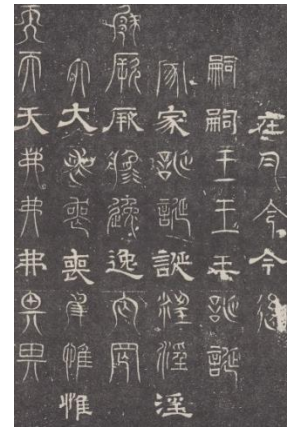
慧可断臂図（雪舟筆）

禅宗の二祖慧可と初祖ダルマの出会い



Confucius Sinarum philosophus (『中国の哲学者孔子』)

儒教をヨーロッパに紹介した最初期の文献、1687年出版



三体石経（正始石経、三国魏）

古文・篆書・隸書の三体の『書経』



清真寺（甘肅省天水市）

モスクではない漢式イスラーム寺院



毛沢東・鄧小平・江沢民（広西自治区南寧市、2001年）

共産党の近代化指導をアピールする看板



梁啓超（ボストン時代）

清末民国初を代表する啓蒙思想家



一氣通感図（李元綱『聖門事業図』、宋代）

心と気の関係を図示する



六候煉丹図（『修道全指』、民国）

道教の修行法、内丹法の図解



三聖図（『性命圭旨』、明代）

儒仏道三教の聖人、孔子・釈迦・老子



李退溪（李滉）像

朝鮮儒学最高峰と称される朱子学者



伊藤仁斎像

江戸期に中国と異なる儒教思想を説く



湯島聖堂（東京都文京区）

かつての江戸幕府学問所、昌平黌